

W17-391

余暇楽しむ気分で

終活イベントに3200名

「終活」とは、「死ぬための準備」ではなく、「自分を見つめ、自分らしく今を楽しむ生きる活動」のこと。余暇を楽しむためのヒントが集結した「第2回終活フェスタ2014 in東京」(主催・社終活カウンセラー協会)が8月24日に都内で開催され、シニアやその家族など、3230名が来場した。



▲終活フェスタ2014。会場は賑わいを見せた



▲女優の中尾ミエさんの講演

当日は、女優の中尾ミエさんと各種専門家らによるパネルディスカッションが行われた。中尾さんは「電車のなかで一番大きな声で笑い喋っているのは女性のシニア層。女性はコミュニケーションが積極的にとれるため問題ないが、問題は男性。男性は孤立しがち」と、男性シニアが孤立傾向にあることに触れた。また、浄土宗心光院の戸松義晴住職は、「子どものために財産を残すのではなく、自分自身のために使ってほしい。財産に頼らずに自立して生きていく方法を子どもに教えたほうがいい」と、自分の財産は自分で使うべきだと強調した。

会場には、遺品整理サービス会社や葬儀会社、悩み相談を行う会社など37企業が出展。出展者の1社「アマルコルド」は個人の想いをかなえる映像会社。プロの脚本家、カメラマン、役者により個人の思い出を映像化したり、文化人や芸能人などをインタビューしてきたスタッフが後世に残したい個人の声を聞き、映像化したりする。堀井裕子代表は「家族でも知らなかった話などをプロのインタビュアーが聞き出すこともある。70年代に青春を送った団塊世代から上の世代をターゲットにしている」という。

シニアを対象とした写真館を運営する「サンクリエーション」のブースでは、プロのスタイリストによる化粧から写真撮影までを体験してもらう無料体験が人気を集めた。「シニアは独自の化粧方法を確立しています。眉毛の位置や描き方、アイライナーの引き方など、プロ目線でアドバイスしています」と、太田明良社長は語る。



▲棺の中に入ってみる人も